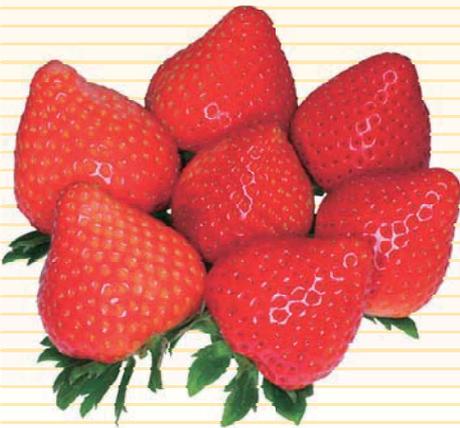


九州・沖縄で普及する

品種

と

技術

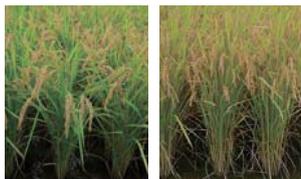


 農研機構

九州沖縄農業研究センター

活躍中の品種

水稲 きぬむすめ にこまる



きぬむすめ

にこまる

西日本一帯に普及しているおいしいお米

「きぬむすめ」「にこまる」は西日本向きのおいしいお米の品種。いずれの品種も暑い年でも米の品質が低下しにくいいため、「きぬむすめ」は島根県など8県、「にこまる」は長崎県など7県で奨励品種に採用され、西日本一帯に広まっています。

大麦 はるか二条



多収で病気にも強い暖地向き二条大麦

食用や焼酎醸造に向く、極めて多収な二条大麦品種。倒伏や穂発芽をしにくく、暖地で問題となっているオオムギ縞萎縮病に抵抗性があります。福岡県、長崎県、佐賀県、鹿児島県、宮崎県で「ニシノホシ」に代わる九州の主力品種として栽培が広がっています。

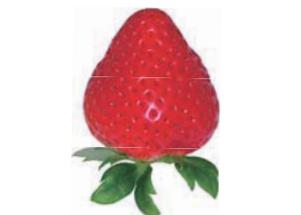
サツマイモ べにはるか



しっとり極甘、高品質サツマイモ

貯蔵後のしっとりとした肉質と高い糖度が特長。焼きいもや蒸切干いもとして人気が高く、お菓子や焼酎等の原料にも適しています。いもの外観、収量性および病害虫抵抗性が優れ、バランスのとれたサツマイモ品種です。茨城県、千葉県、熊本県、大分県、鹿児島県など全国で栽培が広がっています。

イチゴ 恋みのり



大粒で日持ち性に優れた良食味イチゴ

大粒で、単価の高い2月末までの収量性が優れる促成栽培用品種。果実の揃いに優れ秀品率が高いことから、収穫・調製作業が大幅に省力化できます。また果実が適度に硬いため傷みにくく、輸送性ならびに日持ち性に優れます。熊本県、長崎県など各地で栽培が広がっています。

ソバ 春のいぶき



夏に新ソバを味わえる春まき品種

5月下旬～6月上旬に収穫できる春まきソバ品種。穂発芽しにくく収穫期の降雨に対し品質が低下しにくい特長があります。盛夏に、新ソバが楽しめることから、地域特産作物として注目されており、大分県、鹿児島県、熊本県など各地で産地化が進んでいます。さらに穂発芽しにくい新品種「NARO-FE-1」の普及もはじまっています。

活躍中の技術

スズメノテッポウの効率的防除



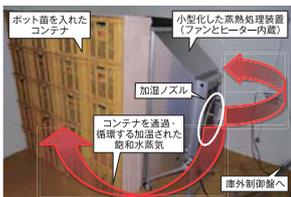
除草剤が効かなくなった雑草を効率的に防除する

今まで使っていた除草剤が効かなくなった麦作の雑草「スズメノテッポウ」の発生量を、耕うん方法や播種方法の工夫と非選択性除草剤の組み合わせで大幅に減らすことができます。「カズノコグサ」に対しても効果的です。



スズメノテッポウ防除マニュアル

イチゴの蒸熱処理技術



熱だけでイチゴ苗の病害虫をまとめて防除

定植前のイチゴ苗の病害虫を熱で防除できる蒸熱処理防除装置と防除マニュアルを作成しました。蒸熱処理防除技術により、化学農薬を用いずにナミハダニやうどんこ病菌の消毒が可能です。生物的防除と組み合わせて、本圃での減化学農薬栽培に貢献できます。



蒸熱処理防除マニュアル

飼料作物の不耕起栽培



不耕起栽培で播種作業を省力化

暖地では年に複数回、飼料作物を作付できます。しかし前作の収穫作業と次作の播種作業が重なるため、作業競合を軽減する技術が必要です。そこで圃場の耕起・整地作業を省き、前作を収穫した後の圃場に種を直接播ける不耕起栽培技術を開発しました。飼料用トウモロコシ、スーダングラス、ソルガム等に利用できます。

黒大豆クロダマルの6次産業化



黒大豆品種の特長を生かし商品開発、そして地域振興へ

「クロダマル」は、九州での栽培に適した黒大豆品種で、大粒で甘みが強くアントシアニン含量が高い特長があります。産地への働きかけと品種特性を生かした製品開発を同時並行的に進めることで、各地で6次産業化の素材として活用されています。

麦の赤かび病総合防除マニュアル



食の安全のため、麦のかび毒を的確に低減する

わが国では麦の生育後期に降雨が多いため、赤かび病菌が産生するかび毒による汚染リスクがあります。麦類の播種、防除、収穫、調製等の各生産工程におけるかび毒汚染防止低減対策等のポイントを取りまとめてマニュアルにしました。この活用により、麦類のかび毒汚染低減のための生産工程管理 (GAP) の推進が可能になります。



かび毒低減管理
マニュアル

いちおし品種

米粉用 ミズホチカラ



ふっくら米粉パンが焼ける新規需要向き多収米

米の主食用以外への用途を拡大するために開発した西日本向き多収品種。パンにしたとき、ふくらみがよいのが特長です。800kg/10aの玄米収量が期待でき、米粉用の他、飼料米用にも利用できます。熊本県、鹿児島県、福岡県などで広がっています。

サツマイモ こなみずき



こなみずき シロユタカ
冷蔵4日後のでん粉ゲル

ぶるぶる新食感のでん粉ゲルが作れるでん粉原料用品種

「こなみずき」のでん粉は、和菓子（葛もち、わらびもち）、パン、練り製品などに混ぜることで、形や柔らかさを長期間保持できます。また、でん粉ゲルのぶるぶるした食感を活かすことで、サツマイモでん粉の食品への利用を拡げる素材です。

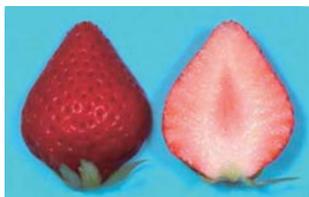
サツマイモ ふくむらさき



濃い紫色で食味の良い紫サツマイモ品種

アントシアニンが豊富に含まれ、貯蔵後の焼きもはしっとりとして、糖度が「べにはるか」並みに高いという特長があります。関東を中心とする青果用サツマイモ産地において、良食味紫いもとして普及が進む見込みです。

イチゴ あまえくぼ



観光農園向けのイチゴ品種

大粒で糖度が高く、食味が極良なイチゴ品種。果皮がやや弱く、日持ち性は劣るので、出荷には適さず、観光農園での利用に向いています。

飼料用サトウキビ やえのうしえ



南西諸島の飼料自給力を強化

肉用牛の子牛生産が盛んな南西諸島に向けた飼料用サトウキビ品種。再生栽培が可能で、刈り遅れても倒伏しにくいいため機械収穫作業に適しています。またサトウキビの重要病である黒穂病にも強いのが特長です。

いちおし技術

水稲湛水直播に向けたべんモリ被覆技術



水稲湛水直播向けの省力的で安価な種子被覆技術

べんから（酸化鉄）とモリブデン化合物を種子に被覆することで、水稲を湛水直播した時の苗立ちを安定させることができます。被覆資材量が少ないため、被覆にかかる費用と手間を大幅に軽減できるのが特長です。



べんモリ直播の情報

表層散播機を用いた播種技術



水稲・麦・ソバ等を一工程で全面播きする技術

アップカットロータリを活用し、水稲・麦・ソバ等を一工程で播種できるため、省力で降雨後の速やかな作業が可能です。ロータリの整地板を外した状態で、ロータリ後方へ飛散する土の中に種子を散粒し、表層の一定深さに散播します。



表層散播機の情報

振動ローラによる漏水防止技術



麦作後すぐに取り組める水稲乾田直播技術

水稲播種後に振動ローラで鎮圧し、代かきなして下層への漏水を抑制します。高い漏水防止効果を得るには、鎮圧時に、地表面の土が握って固まる程度に湿っていることが大切です。漏水が問題となりしがちな麦作後の水田でも乾田直播に取り組めます。



乾田直播技術マニュアル

ハウレンソウ機械収穫体系



加工・業務用ハウレンソウの刈り取り再生栽培技術

中小規模向けの歩行型加工用野菜収穫機を利用した機械化体系により、省力・低コスト化が図られます。ハウレンソウを2回収穫する「刈り取り再生栽培」ができるという特長があります。



ハウレンソウ機械体系マニュアル

サツマイモ小苗移植技術

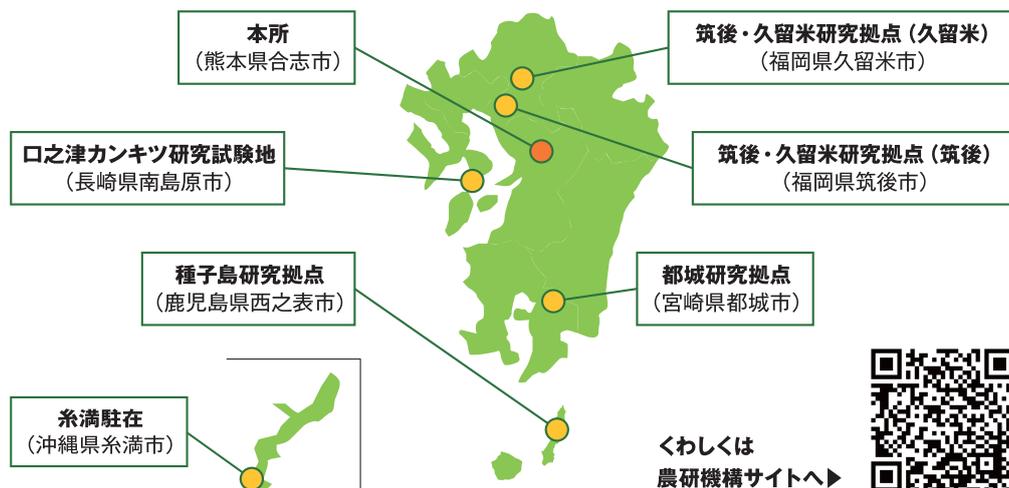


小苗を半自動野菜移植機でらくらく作業

密植して育てた長さ約15cmサツマイモ小苗を、一斉採苗機により苗床を全面刈りし、半自動野菜移植機を用いて植え付けます。育苗から植え付けまでの作業時間を半分に削減できます。

農研機構九州沖縄農業研究センターとは？

九州・沖縄地域の自然や社会と調和した農業・農村の発展、消費ニーズに応じた高品質な作物生産や生産性向上を目指し、地域農業の生産力向上につながる研究を幅広く行っています。



■新品種の開発

稲・麦・大豆・サツマイモ・サトウキビ・イチゴ・ソバなど、高品質で九州・沖縄地域に適した新品種を開発を行っています。また、それらの機能性の解明も行っています。



■水田・畑輪作体系の開発

九州・沖縄地域の条件にあった水田、畑の輪作作物の組み合わせや、効率の良い作業技術を開発し、地域農業の生産性向上をめざす研究を行っています。



■温暖化対応技術の開発

温暖化による気候変動に強い農業、畜産の技術や病害虫の発生予測と防除技術、環境負荷の少ない農業技術を開発しています。



■地域資源の活用技術開発

九州・沖縄地域の温暖な気候資源を利用した放牧技術や飼料作物の開発、食品残渣の飼料への利用、畜産廃棄物等の有機物資源の利用技術の開発を行っています。



2019年3月 作成

【お問い合わせ先】農研機構九州沖縄農業研究センター 産学連携室

〒861-1192 熊本県合志市須屋 2421 TEL 096-242-7682 / FAX 096-242-7543

[E-mail] q_info@ml.affrc.go.jp [HP] www.naro.affrc.go.jp/karc